

ハリモミ *Picea torano* (Siebold ex K.Koch) Koehne

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 30m、直径約 1m になる。樹皮は灰褐色で不ぞろいに裂け、鱗片状になってはがれる。若枝は淡黄褐色で毛がなく、光沢がある。葉は線形、長さ 15～20mm、幅 1.5～2.5mm、少し内側に曲がり、先端は鋭くとがり、横断面は四角形で 4 面に白色の気孔帯がある。花期は 5～6 月、雄花は狭長楕円形で紅紫色である。毬果ははじめ上向きであるが、のちに下垂してその年の秋に熟し、卵状長楕円形で先は丸く、黄緑色、長さ 8～10cm、直径約 4.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44820, 1993-6-27)、2 豊根 (芹沢 81942, 2007-8-4)、6 設楽西部 (小林 36190, 1992-3-29)。3 区画に生育しているが、個体数はごく少ない。

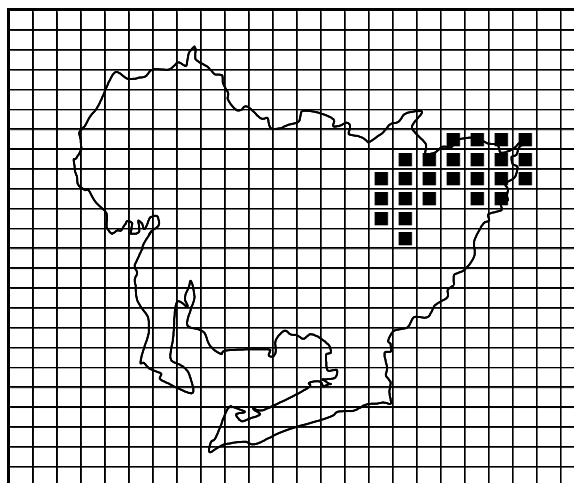
【国内の分布】

本州 (福島県以南)、四国、九州。富士山麓には純林があり、国の天然記念物として保護されている。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

トウヒ属としては最も低いところに生育し、一般にあまり群生しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

自然林内に点在しているだけである。高木であるだけに成木の個体数は更に少ない。拡大造林のため自然林が広範囲に伐採された時代に、相当減少したものと思われる。

【保全上の留意点】

自然林や二次林内は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。本種の場合は、個体レベルでの個別的な保全も必要である。

【特記事項】

日本産のトウヒ属の中では葉が最も太くて硬く、ハリモミの名はそれに由来する。

【関連文献】

保木Ⅱ p.434, 平木Ⅰ p.12, 平新版Ⅰ p.29, SOS 旧版 p.43+図版 2, SOS 新版 p.15,17.